

目 的

令和5年11月～12月にかけて、区民を対象とした「がんに関する意識調査」を実施した。

この調査及び分析結果をもとに、「第2期墨田区がん対策推進計画」の策定及びがん対策に効果的な施策の提案等を行う。

質 問項目

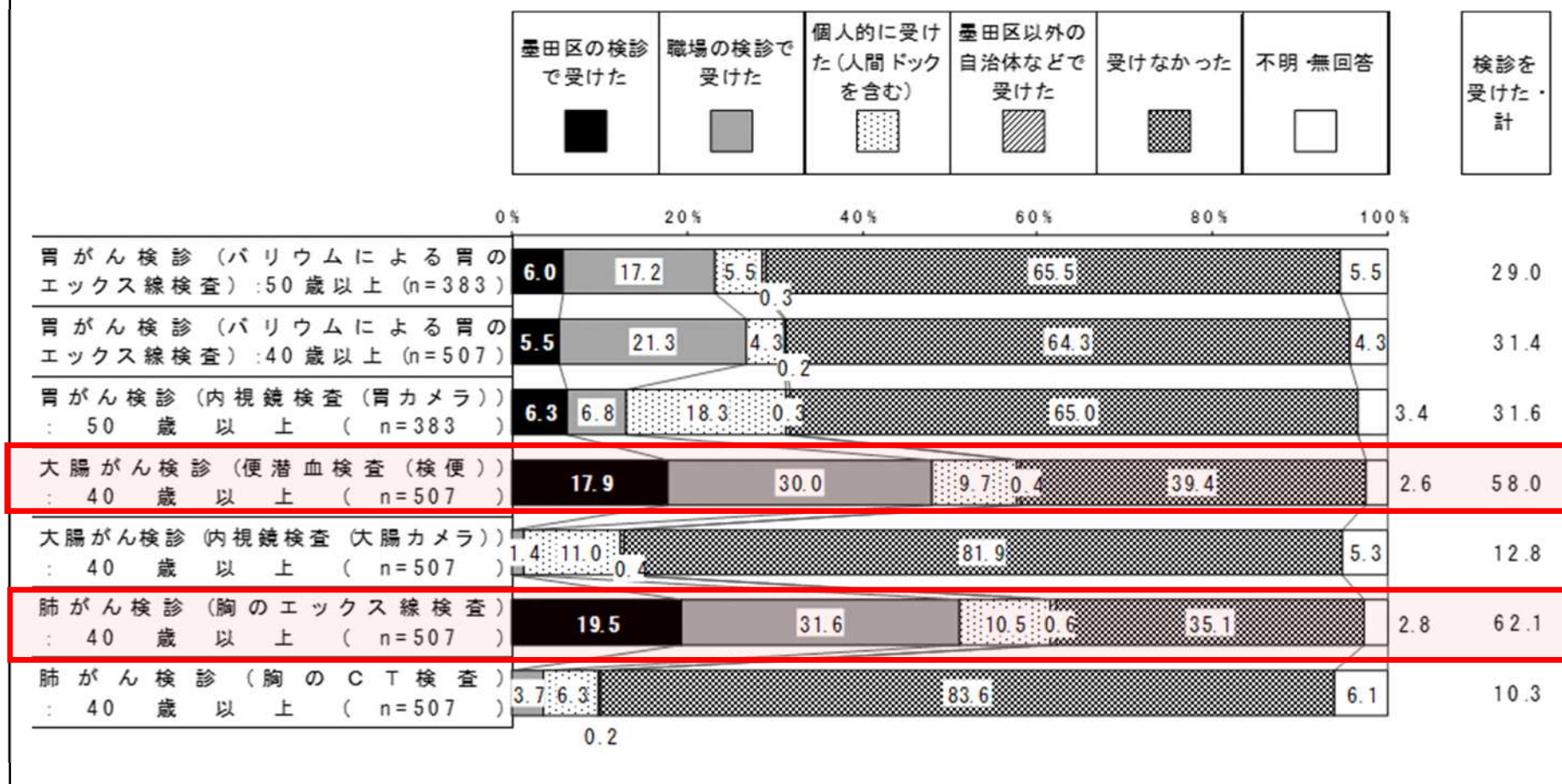
- ▼ ご自身のことについて
- ▼ がんの罹患について
- ▼ がん検診について
- ▼ がんについてと区のがん対策について
- ▼ がん患者とその家族の生活について
- ▼ 区におけるがん予防や啓発、その他の取組に対するアイデアや意見

調 査概要

- (1) 調査地域：墨田区全域
- (2) 調査対象：墨田区在住の20歳以上の男女（年齢は令和5年11月1日現在）
- (3) 標 本 数：2,000標本 有効回収数 704標本（有効回収率 35.2%）
- (4) 標本抽出：住民基本台帳からの層化二段無作為抽出
- (5) 調査方法：郵送配布 - 郵送・インターネット回収
調査期間中に協力のお礼・依頼のはがきを1回送付
- (6) 調査時期：令和5年11月27日（月）～12月22日（金）

がん検診受診率（意識調査）

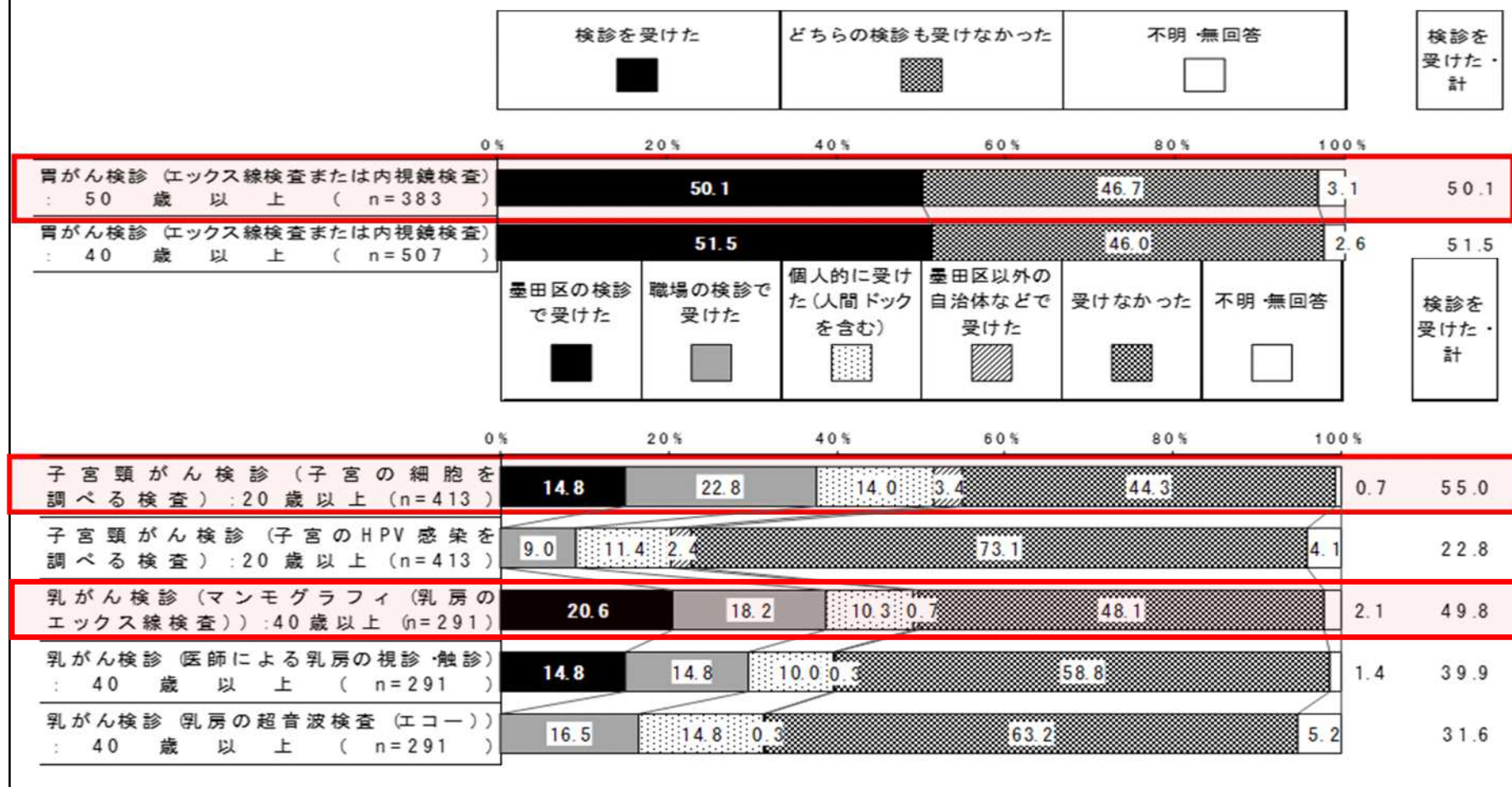
1年間のがん検診受診状況（胃がん検診・子宮頸がん検診・乳がん検診は2年間に1回）についてみると、
「大腸がん検診（便潜血検査（検便）」の受診率は58.0%、「肺がん検診（胸のエックス線検査）」の受診率は62.1%となっており、目標受診率の50%を超えている。



がん検診受診率（意識調査）

「胃がん検診（バリウムによる胃のエックス線検査）」、「胃がん検診（内視鏡検査（胃カメラ）」はそれぞれ単独の検診ではともに3割前後の受診率となっているが、**バリウムによる胃のエックス線検査、または内視鏡検査（胃カメラ）のどちらか一方でも受診した割合は50.1%となっており**、目標受診率の50%をクリアしている。

女性特有のがん検診受診状況は、「**子宮頸がん検診（子宮の細胞を調べる検査）**」の受診率は**55.0%となっており**、目標受診率の50%を超えている。なお、「**乳がん検診（マンモグラフィ（乳房のエックス線検査））**」は**49.8%となっており**、目標受診率の50%をほぼ達成している。

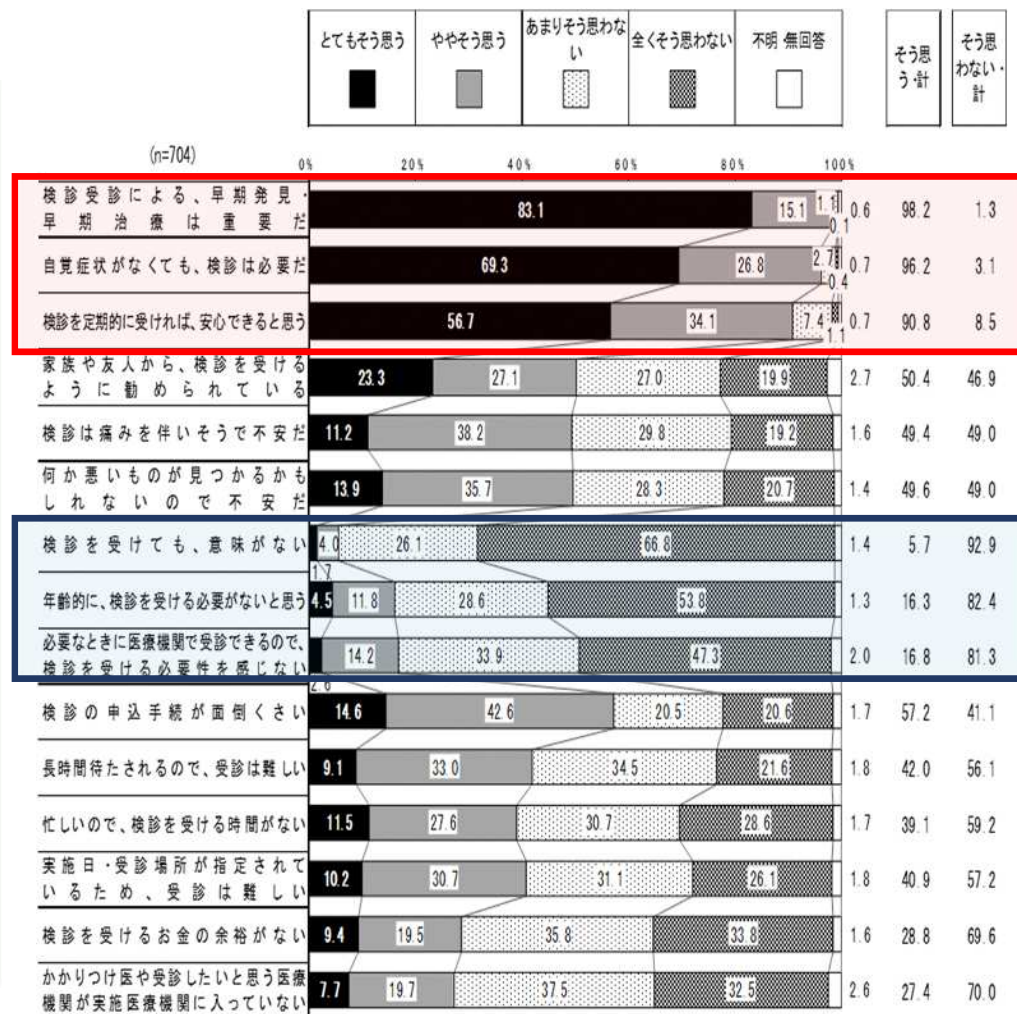


が ん に対する考え

がん検診の受診に対するあなたの考えについて、それぞれの項目で当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。（○はそれぞれ1つずつ）

がん検診に対する考えについては、「**検診受診による、早期発見・早期治療は重要だ**」の項目で「**とてもそう思う**」の割合が**83.1%**と最も高く、次いで「**自覚症状がなくても、検診は必要だ**」で**69.3%**、「**検診を定期的に受ければ、安心できると思う**」で**56.7%**などとなっている。

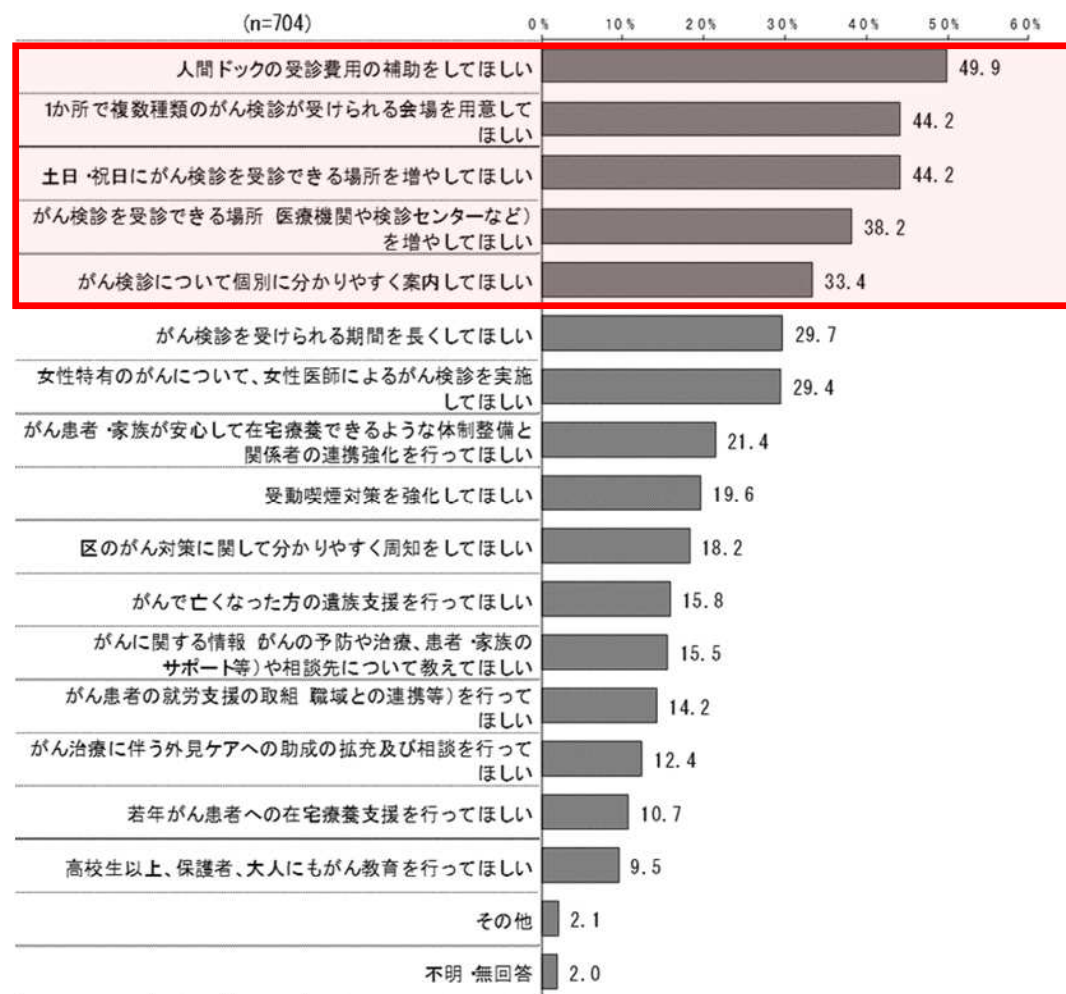
一方、「**検診を受けても、意味がない**」の項目で「**全くそう思わない**」の割合が**66.8%**と最も高く、次いで「**年齢的に、検診を受ける必要がないと思う**」で**53.8%**、「**必要なときに医療機関で受診できるので、検診を受ける必要性を感じない**」で**47.3%**などと続いている。



区のがん対策で期待すること

墨田区が実施するがん対策の取組として、あなたはどのようなことを期待しますか。次の中から挙げてください。（○はいくつでも）

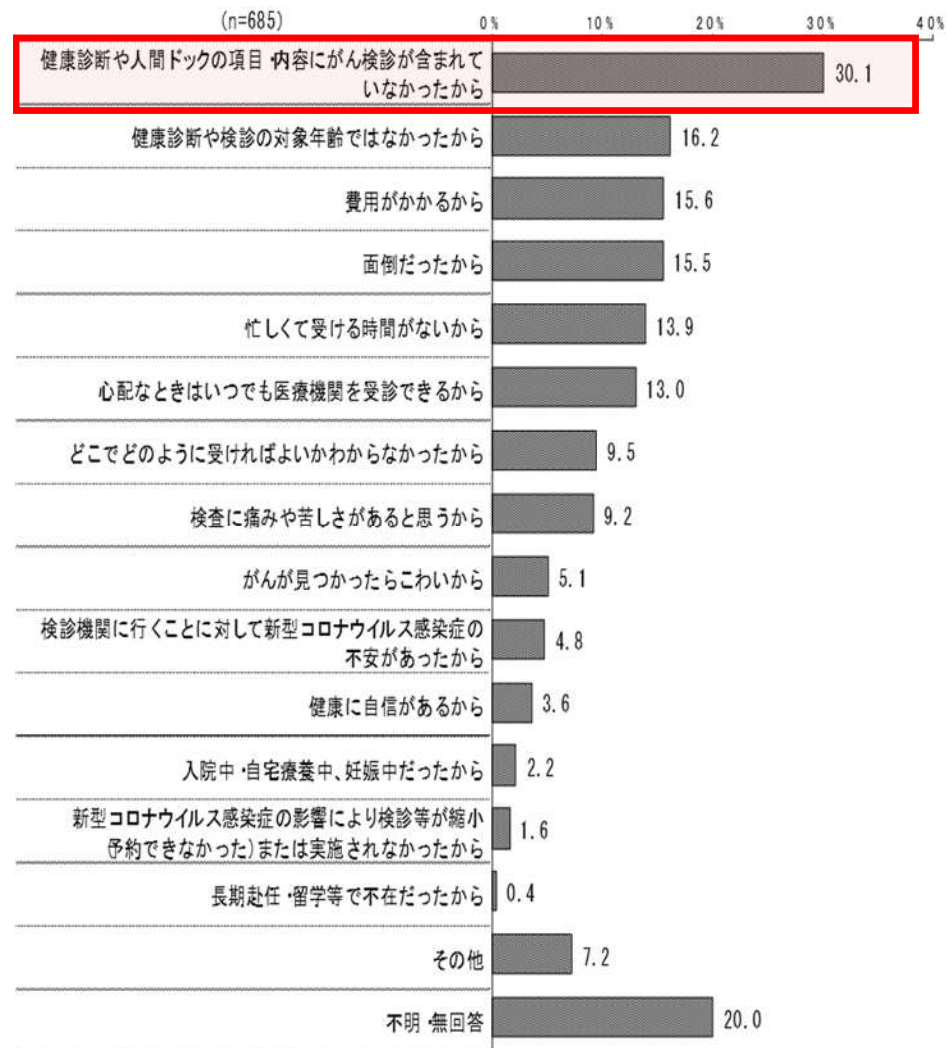
区のがん対策の取組で期待することは、
「人間ドックの受診費用の補助をしてほしい」が49.9%で最も高く、次いで
「1か所で複数種類のがん検診が受けられる会場を用意してほしい」と「土日・祝日にごん検診を受診できる場所を増やしてほしい」が同率で44.2%、
「がん検診を受診できる場所（医療機関や検診センターなど）を増やしてほしい」が38.2%、
「がん検診について個別に分かりやすく案内してほしい」が33.4%などと続いており、上位5位まではいずれも3割を超えている。



がん検診を1つでも受けなかった理由

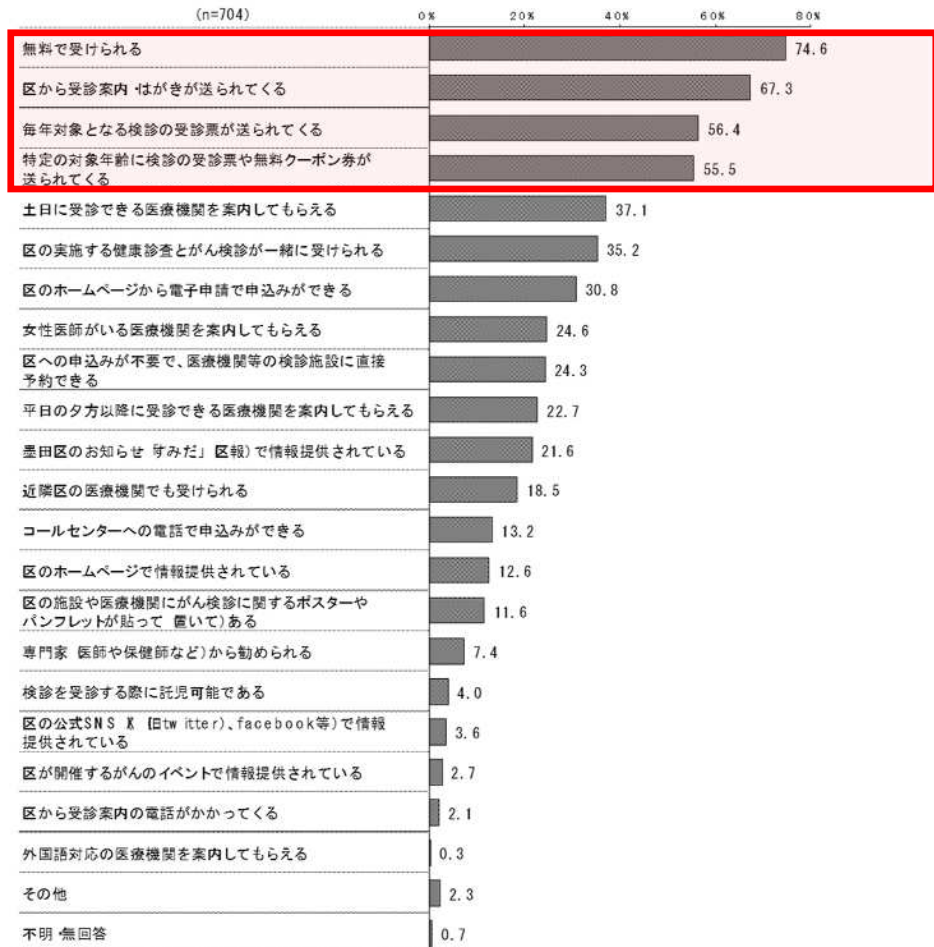
がん検診を受けなかった理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

いずれか1つでもがん検診を受けなかった理由について聴取したところ、「**健康診断や人間ドックの項目・内容にがん検診が含まれていなかったから**」が**30.1%で最も高く**、次いで「健康診断や検診の対象年齢ではなかったから」が16.2%、「費用がかかるから」が15.6%、「面倒だったから」が15.5%、「忙しくて受ける時間がないから」が13.9%などとなっている。



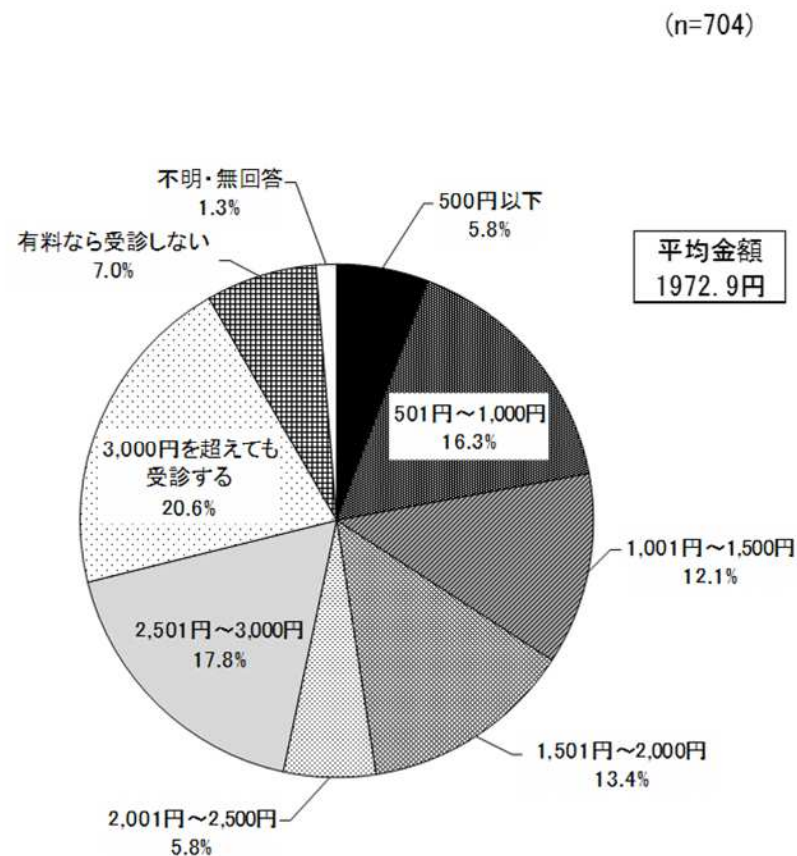
あなたは、どのようなきっかけがあれば墨田区のがん検診を受けようと思いますか。次の中から挙げてください。（○はいくつでも）

墨田区のがん検診を受けようと思う契機は、
「無料で受けられる」が74.6%で最も高く、次いで「区から受診案内・はがきが送られてくる」が67.3%、「毎年対象となる検診の受診票が送られてくる」が56.4%、「特定の対象年齢に検診の受診票や無料クーポン券が送られてくる」が55.5%、「土日に受診できる医療機関を案内してもらえる」が37.1%、「区の実施する健康診査とがん検診が一緒に受けられる」が35.2%、「区のホームページから電子申請で申込みができる」が30.8%などと続いている。



区のがん検診の受診に費用がかかる場合、あなたは、いくらまでなら受診しますか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。（○は1つだけ）

墨田区のがん検診を受診したいと思える上限金額は、「3,000円を超えても受診する」が20.6%で最も高く、次いで「2,501円～3,000円」が17.8%、「501円～1,000円」が16.3%、「1,501円～2,000円」が13.4%などとなっており、「有料なら受診しない」は7.0%となっている。なお、費用がかかってもよいと回答した方の「平均金額」は、1972.9円となっている。



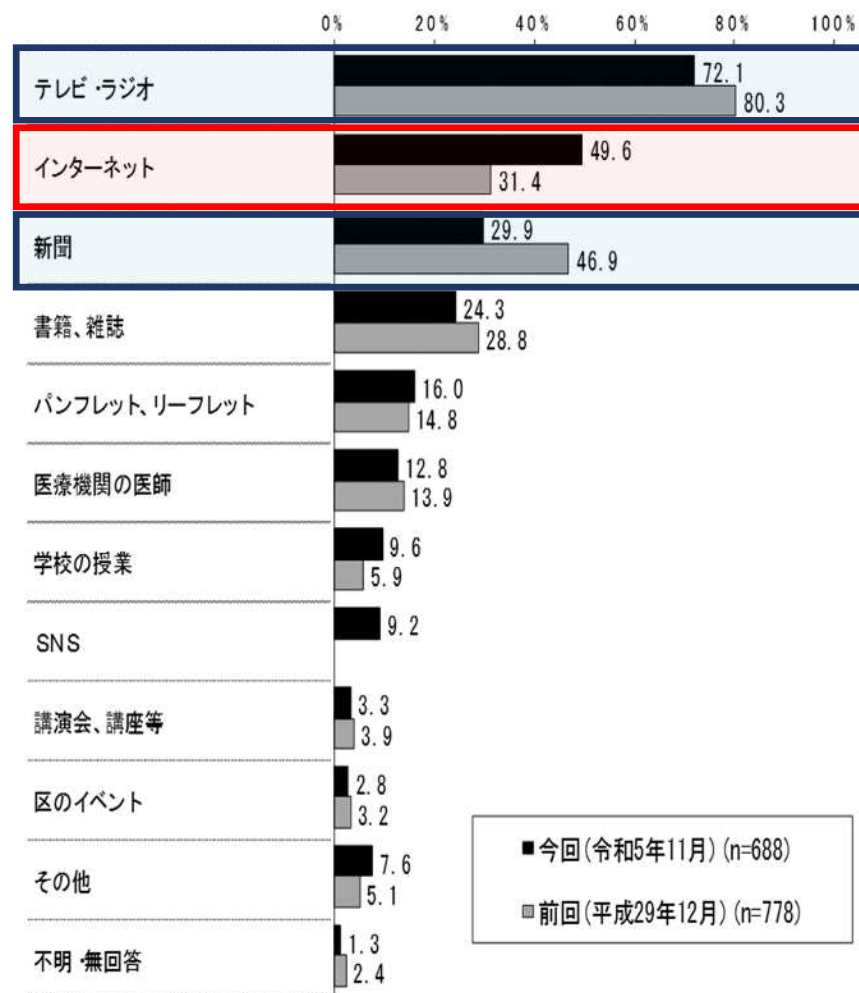
がんについての情報源

あなたが（がんについて）知っているのと答えたことを、どうやって知りましたか。次の中から挙げてください。（○はいくつでも）

がんについての一般的な情報の認知経路は、「テレビ・ラジオ」が72.1%で最も高く、次いで「インターネット」が49.6%、「新聞」が29.9%、「書籍、雑誌」が24.3%、「パンフレット、リーフレット」が16.0%、「医療機関の医師」が12.8%などと続いている。上記以外の情報源はいずれも10%未満に留まっている。

【今回結果と前回結果の比較】

前回（平成29年12月）調査と比べて、今回5ポイント以上の変化がみられたのは、「**インターネット**」（前回31.4%→今回49.6%で18.2ポイントの増加）、「**テレビ・ラジオ**」（前回80.3%→今回72.1%で8.2ポイントの減少）、「**新聞**」（前回46.9%→今回29.9%で17.0ポイントの減少）となっている。



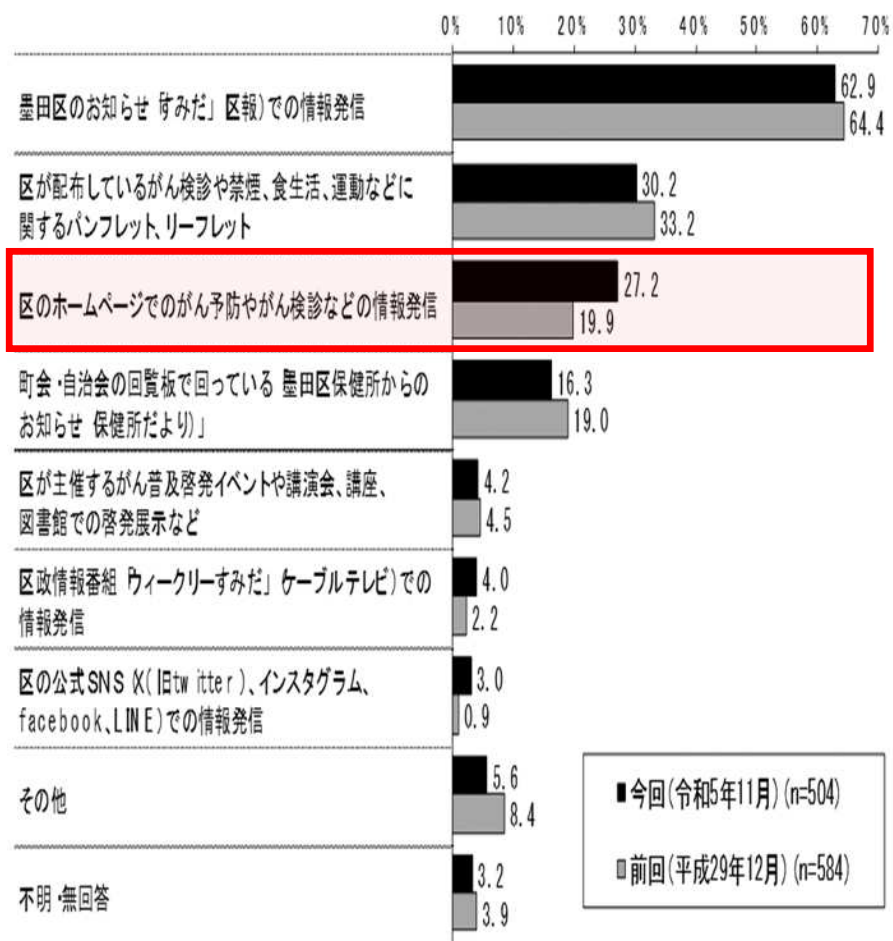
区のがん対策の取組の情報源について

あなたは、墨田区のがん対策の取組について、どのような媒体から情報を得ていますか。次の中から挙げてください。（○はいくつでも）

区のがん対策の取組の情報源は、「**墨田区のお知らせ「すみだ」（区報）での情報発信**」の割合が**62.9%**で最も高く、次いで「区が配布しているがん検診や禁煙、食生活、運動などに関するパンフレット、リーフレット」が30.2%、「区ホームページでのがん予防やがん検診などの情報発信」が27.2%、「町会・自治会の回覧板で回っている「墨田区保健所からのお知らせ（保健所だより）」が16.3%などと続いている。

【今回結果と前回結果の比較】

前回（平成29年12月）調査と比べて、今回5ポイント以上の変化がみられたのは、「**区ホームページでのがん予防やがん検診などの情報発信**」（前回19.9%→今回27.2%で**7.3ポイントの増加**）のみとなっている。



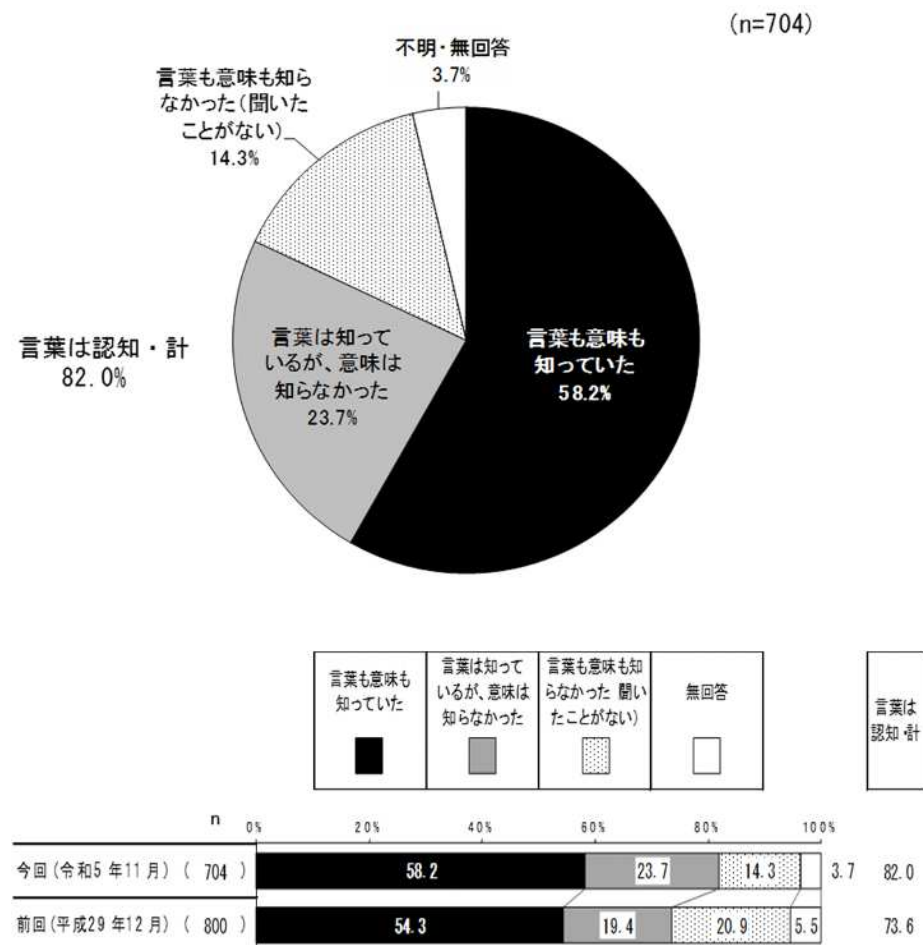
緩和ケアの言葉や意味の認知状況

あなたは、「緩和ケア」（病気に伴う心や体、社会的な痛みを和らげること）という言葉やその意味を知っていましたか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。（○は1つだけ）

緩和ケアの言葉や意味の認知状況は、「言葉も意味も知っていた」の割合が58.2%となっており、「言葉は知っているが、意味は知らなかった」は23.7%、「言葉も意味も知らなかった（聞いたことがない）」は14.3%となっている。なお、「**言葉も意味も知っていた**」と「**言葉は知っているが、意味は知らなかった**」を合わせた「**言葉は認知している・計**」は82.0%となっている。

【今回結果と前回結果の比較】

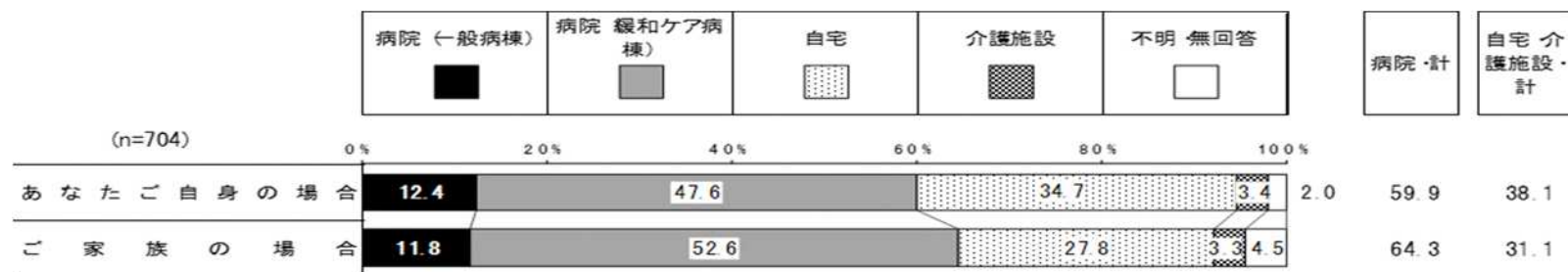
今回「言葉も意味も知っていた」と「言葉は知っているが、意味は知らなかった」を合わせた「言葉は認知している・計」の割合は82.0%となっており、**前回（平成29年12月実施）調査の73.6%から8.4ポイント増加している。**



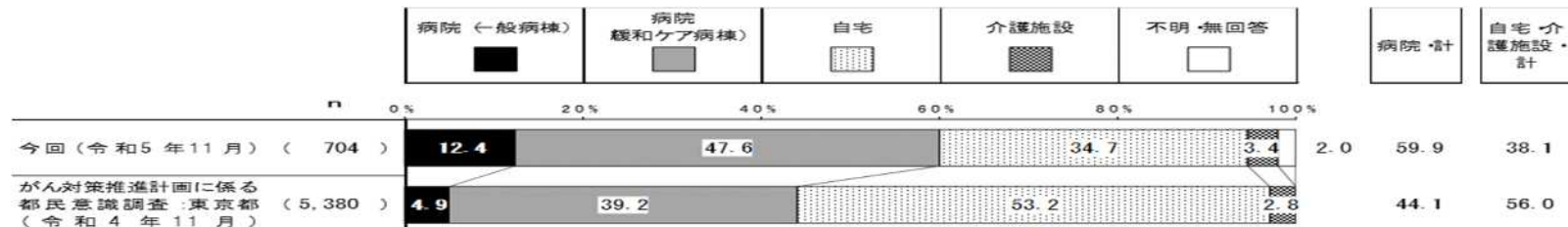
療 養を続けたい場所

あなたは、もし、自分または家族が末期がんなどで長期の療養が必要になった場合、どこで過ごしながら療養を続けたいと思いますか。それぞれ当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。（○はそれぞれ1つずつ）

療養を続けたい場所は、自分の場合及び家族の場合のどちらも「病院（緩和ケア病棟）」の割合が約5割～5割超と最も高く、次いで「自宅」で約3割～3割台半ば、「病院（一般病棟）」で1割超、「介護施設」は1割未満となっている。



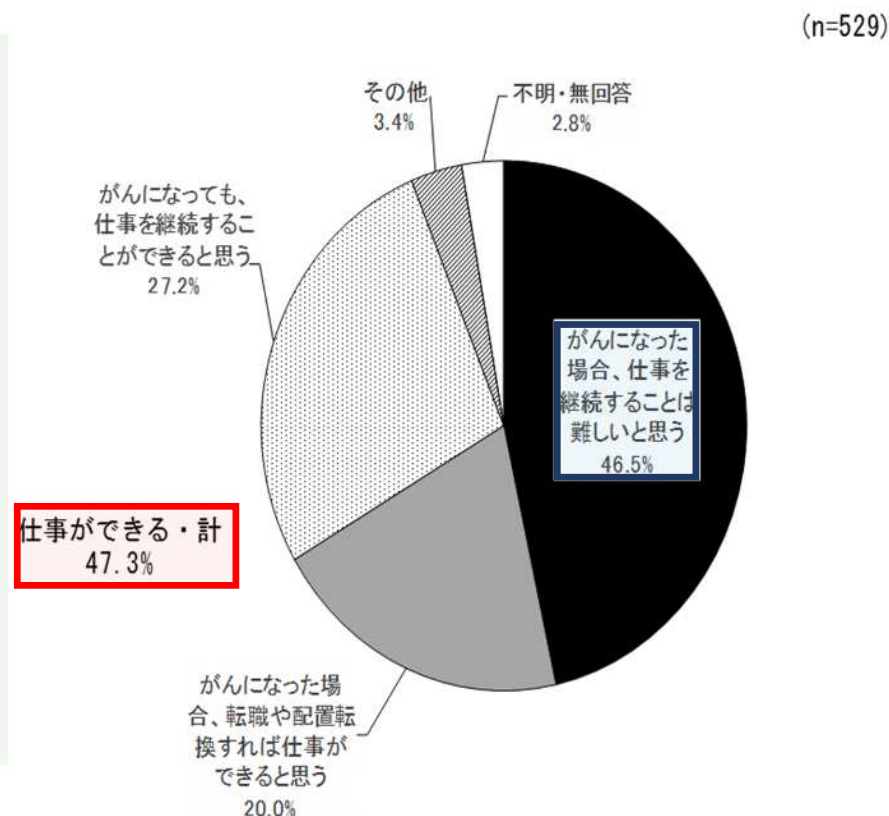
療養を続けたい場所について、東京都の調査結果と比べると、区の調査では「病院（緩和ケア病棟）」の割合が47.6%、東京都の調査では「医療機関（緩和ケア病棟）」の割合は39.2%と、区の方が8.4ポイント高くなっている。一方、「自宅」についてみると、区の調査では34.7%、東京都の調査では53.2%と、東京都の方が18.5ポイント高くなっている。



がんになった場合の仕事継続の可能性

【現在、就業中の方にお伺いします（育児休業中または介護休業中の方も含みます）】
もし、あなたががんになった場合、仕事を継続することは可能だと思いますか。当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。（○は1つだけ）

がんになった場合の仕事継続の可能性は、「**がんになった場合、仕事を継続することは難しいと思う**」が46.5%、「**がんになっても、仕事を継続することができると思う**」が27.2%、「**がんになった場合、転職や配置転換すれば仕事ができると思う**」が20.0%となっており、「**がんになっても、仕事を継続することができると思う**」と「**がんになった場合、転職や配置転換すれば仕事ができると思う**」を合わせた「**仕事ができる・計**」は47.3%となっている。なお、その他の内容の多くは「**がんの程度によるのでわからない**」となっている。

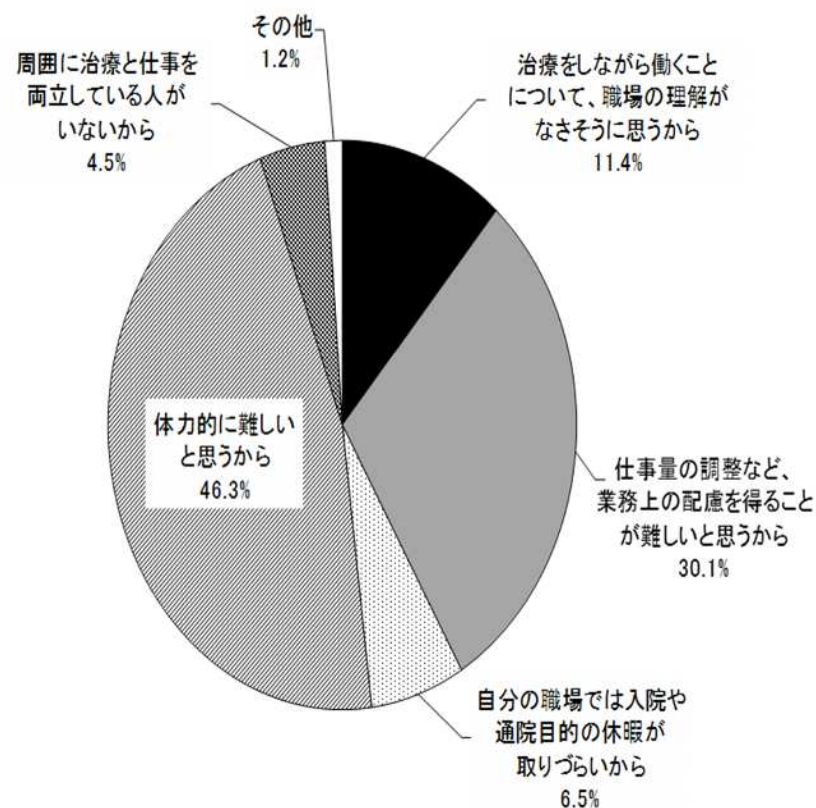


がんになった場合、仕事を継続することは難しいと思う理由

あなたが「がんになった場合、仕事を継続することは難しいと思う」理由のうち、最も当てはまる番号を1つ選んで○をつけてください。（○は1つだけ）

がんになった場合、仕事を継続することは難しいと思う理由は、「**体力的に難しいと思うから**」が46.3%、「**仕事量の調整など、業務上の配慮を得ることが難しいと思うから**」が30.1%、「**治療をしながら働くことについて、職場の理解がなさそうに思うから**」が11.4%、「**自分の職場では入院や通院目的の休暇が取りづらいから**」が6.5%、「**周囲に治療と仕事を両立している人がいないから**」が4.5%となっている。

(n=246)



自分や家族ががんになった場合、整っていることが望ましい環境

あなたご自身やご家族ががんになった場合、こういった環境が整っていることが望ましいと思いますか。以下のうち、最も望ましいと思う番号のものから順に、3位まで番号をご記入ください。

自分や家族ががんになった場合、こういった環境が整っていることが望ましいかについて聴取したところ、**第1位で最も高かったのは、「専門的な治療を提供する機器や施設を備えた病院が整備されていること」で29.7%、以下、「高度ながん医療を提供する病院、地域の病院、かかりつけ医（身近で気軽に相談できる医療機関）などが連携し、安心して受診や転院ができる体制が整っていること」が18.5%、「最先端の治療薬・治療機器・治療方法等を選択できる体制が整っていること」と「がん医療について専門的な知識を有する医師や看護師などの医療従事者がいること」が同率で16.8%と続いている。**また、第2位で最も高かったのは、「最先端の治療薬・治療機器・治療方法等を選択できる体制が整っていること」で20.7%、第3位で最も高かったのは、「高度ながん医療を提供する病院、地域の病院、かかりつけ医（身近で気軽に相談できる医療機関）などが連携し、安心して受診や転院ができる体制が整っていること」で17.3%となっている。

